

第4回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

平成28年7月22日（金）

午前9:30～12:15

南魚沼市役所本庁舎大会議室

1.開会

（進行：片桐企画政策課長）

2.市長挨拶

（代理：副市長）

総合戦略の策定にあたり、ご尽力いただき感謝する。地方創生交付金のKPIの効果検証をしていただきたい。新しい取組としてCCRC、グローバルITパークなどを基軸とし、地方創生が大きく推進することを期待している。取組経験の浅い部分ではあるが、皆さんの知恵と経験をお借りして取組んでいきたい。今後ともご支援・ご協力願いたい。

3.会議

（進行：熊倉委員長）

資料が事前送付されているので、説明はできるだけ簡略に願いたい。②を重点的に皆さんから意見をいただくよう進めたい。それでは①について、なぜ検証が必要なのかとどういう事業を進めてきたのか、進めていきたいのかを簡潔に説明いただきたい。

① 南魚沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略全体の事業効果の検証について

事前配布資料：資料No.1-1、資料No.1-2、資料No.1-3 により説明

（進行：熊倉委員長）

昨年、皆さんに議論していただいて作った総合戦略の中でいろいろ事業があったが、それを総合計画の中に一度整理し直した。さらに国が交付金という形で先行的にお金を出してくれた事業が網掛けの部分。網掛けの部分について、国に急ぎよ効果検証の結果を報告しなければならなくなったので、今回お集まりいただいている。今回は総合戦略全体の検証ではなく、あくまでも地方創生交付金についてのみ、皆さんの意見を賜りたい。いわば本来の議論をする前のモニタリング的な会議だと思っていただきたい。ですので、①については、簡潔に説明いただいた。次に交付金がついた12の事業について説明をいただきながら、皆さんのご意見を賜っていきたい。

では説明いただきたい。

② H27 地方創生推進交付金事業に係る事業効果の検証について

（事務局）

事前配布資料：資料No.2 により、No.1～5 について説明

（進行：熊倉委員長）

No.1～5 について説明いただいたが、No.1 については全体になるので、最後に皆さん

から意見をいただきたい。まずNo.2 から意見をいただいいていこうと思うが、そのときに内部評価の中で、事業効果と事業評価に分けてという聞き方をしているので、効果があった、あるいはこうしたら効果が上がるのではないかという意見がひとつと、もうひとつは KPI という事業評価を計る指標が相応しいのかどうかということについてご意見をいただきたい。

<No.2 市民バス運行事業>

熊倉委員長	No.2 について、一番わかってらっしゃるのは大谷委員だと思うので、大谷委員より意見をお願いしたい。
大谷委員	私は別で市民バスの運行と地域公共交通をどうやっていこうかという協議会にも参加しています。その様子を踏まえて事業評価ということですが、ここにもありますように、「使い勝手のいいものにするにはどうしたらいいのだろうか」「市民の直接の声を吸い上げてどういうバスがいいだろうか」という声を真剣に細かく吸い上げていただいています。結果としては今まで 5 本だったものが 30 本に増えるわけではありませんから、ニーズを全てくみ取るわけにはいかないでしょうけれども、市民の人たちの市民バスに対する見方も変わってくるのではないのかと私は思います。デパートのバーゲンセールのようにすぐに反応するものではございませんので、じっくりじわじわとロコミで出るものだと思います。心の通った、血の通った市民バスを目指していると強く感じているので、こういった評価が適正ではないかと思っています。
熊倉委員長	実際に関わっている方からの評価ですので、甘すぎるのではないかとか、もっとこの点を強調した方がよいではないかとかいうご意見があればぜひお願いしたい。
羽吹委員	実際に市民バスを私の会社でも運行しています。昨年一年間やりまして、まだまだ正直言って、完全な形ではないかなと感じている。やっぱり停留所の関係、お客さんの動き、JR もあり、今までの南越後の路線バスが国道でまっすぐ走り、その脇を市民バスが通っている。その辺の関係なども見直しが必要かなと思っている。その都度アンケートは取っている。お客さんの対応としては、悪いことは言っていないのですけれども、もう少しお客さんを動かしたいというのがあります。お客さんは高齢者の方がほとんどですが、高校関係とかも使えるようにしたら、もうちょっといいのではないかなと思う。その辺は JR もあり、南越後の路線バスもあり、検討しなければいけないと思う。
熊倉委員長	直接関わっているお二人の意見から、この事業をしてみたことで方向性が見えてきた、その中でもっと市民や事業者の意見を聞きながら、需要喚起をしていくということで継続をしていくという、内部評価としてはこれでよろしいか。他の方で実際使ってみて、意見はありますか？私は有料化に踏み切って、数字が上がる傾向が出ていることはいいことだと思う。これについては皆さんよろしいですか？（全員了承）

<No.3 観光振興事業>

熊倉委員長	No.3 観光振興事業についてです。この点については、関副委員長が直接に関わられたこともありますので、意見をお願いします。
関副委員長	イベントの立ち上げに関わった部分があった中で、それぞれの大会で効果が出ていますし、交流人口の増加というのは、この5~6年で起きていると思う。ただ、今後の目標値や進め方について、ほとんど民間主導でやっていて、それぞれに事務局があって、それぞれにボランティアが進めているという状況です。イベントの事務局一本化を進めると効率がいいのではないかと思う。すでにグルメマラソンは採算が取れるレベルになってきたし、グルメライドやコシヒカリトレイルもいずれ補助金がいらなくなる状態になり、事務局員2人くらいの人件費は参加費から捻出できるようなところまでいけるのではないかと思っている。事務局一本化と観光協会の中に町おこしイベントの事務局を置き、それをベースに民間のボランティアがそこに集いながら大会を運営していくことで、継続的に発展させることに繋がっていくのではないかと思う。イベントが増えた中で、昔からやっていて効果が薄いのではないかとか、イベントを統合させてみようとか、イベントをふるいにかける時期にきているのではないかと思う。事務局が一本化していれば、それぞれにあるイベントの検証・統合、仕分けをすることができる。継続的な発展と統合・仕分けを一局でやることで、情報が集まって町おこしイベントとして進めやすいのではないかと思う。また、KPIの平成31年の目標値について、10,000人というのは、事務局を一本化したりすれば、すぐに達成できるところまで来ているので、もう少し目標値は高くてもいいと思う。継続発展させるには、そういう仕組みづくりが必要だと思う。
熊倉委員長	非常に強い評価でした。岩佐委員、これをご覧になっていかがですか？
岩佐委員	私はイベントには特に関わっていないが、全体的なバランスとして、関副委員長がおっしゃっていたことは、素晴らしいことだと感じている。印象としては、観光振興事業は、観光による町おこしや今の実績などからすると、補助金がいらないういながらも、拡大しながらももっと大きくしていく形で捉えた方がいいのかなと考えている。指標としてはもう少し評価がされてもいいのではないかと。特に事業効果については、3になっているが、もう少し強めの評価でもよいのではないかと感じました。
熊倉委員長	高橋委員、いろいろなイベントを見てきて、これについてどう感じましたか？
高橋委員	グルメマラソンは取材に行き記事も書かせていただいた。実際に現場で見ると参加者の人数に圧倒された。関東からの参加者が多く、それだけ多くの方が動いたということは、効果に繋がっていると思う。グルメライドについては、グルメマラソンより補助金額の大きいイベントがこれからあることは知らなかったもので、見てみたい。

熊倉委員長	矢口委員、事業者として効果はどうでしたか？率直なお話をお願いします。
矢口委員	イベントがいっぱいあることはいいのですが、結局、泊める人がボランティアに出ているので、宿泊にも繋がらないし、ほとんどが日帰り。ボランティアは、宿の人が出ているものが多いし、観光協会からの要請も重なり、二重で出なければならぬことがある。それは直して欲しいと思う。
熊倉委員長	とても重要なお指摘です。全国的に大きな問題だと自分は思っていますが、イベントを増やして一時的に交流人口は増えるが、必ずしも地域の定住人口や働く状況をよくはしていないという問題が出てしまっている。これを解決していかないと、交流人口を増やして定住人口を増やし、地域の雇用の安定を図るといふ絵にはならないというのが見えてきている。群馬県側でも全く同じ状況が起こっている。ワークライフバランスが壊れてきてしまって、働く人は大変だ。有効求人倍率が4だとか5だとかいう数字まで出てしまっているけれども、実は人は働いていない。慢性的な人手不足と人口減少が続いている。この問題をどうやって解決していくかは、とても重要な課題だ。先ほどの事務局一本化と併せて、交流人口やイベントの増加がどう地域の安定した就労環境、雇用環境につながっていくかということを考えていくという意味で矢口委員の発言はとても重要だ。このことを含めて、継続・発展させる、むしろ追加・発展させる、そのためにはお金の入れ方や人の働き方を少し考えようということを入れて評価したい。事業効果も3ではなく、2に上げながら、最後のところに、事業や組織の一本化の問題、それに対して地域で働く人の雇用や就労環境対策をしっかりと取りながら事業を進めていく、交流人口やイベントの増加を定住人口の増加や就労環境の向上に発展に、つなげていくことを今後考えていきたい、ということでもとめたいと思うが、よろしいでしょうか？経営面で塚野委員、坂井委員、ご発言があればぜひお願いしたい。
坂井委員	イベントそのものは盛り上がってきており、年々発展してきているのかなと感じている。一方、参加する人は増えてきているが、足りないところが、観光振興に結び付くところの観客をどう捉えるか。もっと各イベントの中で人を呼び込むPR、参加する人だけではなく、観に来る人たちが、町の中を回遊できる仕組みをどう提供していくのか。みんながボランティアで出ている、町の中に誰もいなければ、入ってきた人を誰がどう対応するのかという問題が起こると思う。その辺の視点がイベントを成功させることだけに力点が注がれている。もうひとつその先に進んでどう捉えるかが大事なのではないかな。
熊倉委員長	おっしゃる通りだと思う。塚野委員どうでしょうか？
塚野委員	今の坂井委員のお話と重複しますが、経済効果等を考えるとイベントに派生してどのように経済効果が得られるか、できれば宿泊をして、飲食

	<p>をしてといったところを含めて観光につなげるような動きがもう少し出てくれば、活性化という意味では、さらに向上していくのではないかなと思う。そういった試みがもう少し出てきてもいいのではないかと感じている。</p>
熊倉委員長	<p>まさに今後の継続の中でメインの議論にしたい課題です。学生や教職員の関わりはどうかということで、事情をよくわかってらっしゃる、樋口委員どうお考えでしょうか？</p>
樋口委員	<p>グルメマラソンは学生のボランティアで30人ほど参加している。私もグルメマラソン、グルメライド、コシヒカリランと昨年度参加させていただいて、楽しませていただいている。交流人口の増加には、非常に寄与していることは感じる。当学院の卒業生が30名程度里帰りしてイベントに参加した。ゴール後にやっぱりいいよね。こっちに住みたいな。仕事があればね。と話していて、看護師なのでそこにあるじゃないと勧めているところなのですが、定住という意味では、域外から我々の学院に来て、一度出て行ったけれども、また戻ってきて、彼ら彼女らを少しでも定住に結びつけるようなことができればいいと思う。</p>
熊倉委員長	<p>看護師はボランティアとしても、とても重要なので、そういう意味でも帰ってきてくれる人がいるとありがたい。中島委員、今の皆さんのお話を聞いていかがでしょうか？</p>
中島委員	<p>グルメマラソンなのですが、私どものキャンパス内が一部コースになっており、約5,000人の方が走り抜けて、我々の学生がそれぞれの民族的な応援をする試みを数年前から行っている。学生も楽しめますし、走り抜ける方々もここはちょっと変わった場所だなと印象を持っていただいて、ここ数年は応援の表彰もいただいており、積極的に参加させていただいている。例を出すと、魚沼市の国際雪合戦は、一泊二日で県外の人それぞれ旅館に宿泊し、夜はみんなで集まって楽しんでいる。こういったことを手本にしながらやっていければと思う。</p>
熊倉委員長	<p>ひとつのところがあまり無理をしないで、きちんとした経済効果が生まれるような組み合わせをこれからしっかり考えていきたい。南雲委員、県内の他の地域の事情と比べていかがですか？もっとここを強くするか、他のところは上手にやっているという部分があればお願いします。</p>
南雲委員	<p>県内の他地域の事情をよく把握していないので、この場ですぐご説明できない。お話を伺っていて、県で取組をする場合と、市で取組をする場合との大きな違いとして、市の場合は市民の方のボランティアをある程度見込んでおられることがあると感じた。県では難しい。グルメマラソンやグルメライドはここ10年で次々に出てきて、発展し、人を集めている。事務局の一本化の話があったが、業務量がかさむはずなので、実施体制を整えることが大切だと考える。イベントの実施が宿泊の増加に結びついていないというお話を聞き、以前由布院のトップの方のインタビュー記事を読んだことを思い出した。由布院が誇るべきことは、入込客</p>

	数の増加ではなく、地元の観光産業の従事者数が増えていることだ、とのこと。これは地元で観光産業に携わり生活できる人が増えているということ。イベントの実施を地域産業としての宿泊業、飲食業の発展に結びつけるには、何をすればよいのか、という視点が必要ではないか。
熊倉委員長	ひとつの大きな課題として、矢口委員には周りの宿泊業の方から声を聞いてきていただいて、継続する重要な議論の柱にしていきたい。

<No.4 子育て支援事業><No.5 不妊治療医療費助成事業>

熊倉委員長	No.4 と 5 はひとつにまとめて議論できる内容。KPI が出生数で厳しい内容だが、No.4 と 5 を見て、どんな意見をお持ちになられたか？ 矢口委員から意見をお願いします。
矢口委員	子どもの数は前より増えていると感じる。一人っ子はほとんどいない。南魚沼市はそれほど子どもが減っているのか、前より逆に増えているのではないかという周りの母親の印象を聞いている。
熊倉委員長	子育て支援の話だと、就学前の子ども数の話だけして、中学、高校まで含めた話はなかなか出ていないのは事実かもしれない。坂井委員はどうですか？
坂井委員	小さい子どもの対策からもう一歩進んで、中学高校、さらに上の教育の支援まで見据えて対策が組めるようになると、次のこの地域を支える就労や産業に結びついてくるのかなと考えている。
熊倉委員長	関副委員長どうですか？
関副委員長	結婚した人は、2人3人と子どもをつくっているが、結婚しない人も多いというのが出生率低下を招いている。ポイントは転出者の減少を食い止めるところだと思う。1,000人高校生が卒業した中で、35歳のときに500人しか戻ってこないというのが現状。企業誘致や流出した若者を呼び戻す取組みが子どもの増加に結びつくと思う。婚活の話が定住自立圏の会議の中でもあったが、婚活は取り組むが、UIJ ターンは今すぐには取り組まないとのことだった。これは表裏一体で、出生率のところも若者が流出してしまえば、子どもの数は増えないわけなので、婚活、出生率、若者の流出防止、UIJ ターンの取組、企業誘致、これを一体で進めていくような問題ではないのかと思う。
熊倉委員長	No.4、5 については、内部評価はこれでよいとして、これだけを単独で考えずに、他の事業とつなげていく、婚活、就労支援、労働環境やワークライフバランスの問題等を含めて全体を見ていく、という形でこの数値を大切にしていこうということではよろしいでしょうか？（全員了承）

<No.6 バイオマス利活用事業>

熊倉委員長	No.6 はペレットストーブの話です。これについては、羽吹委員からご意見を出していただきたいと思います。
羽吹委員	実績としていい数値が出ているということは、それなりに効果があるの

	<p>ではないかと思っている。材料の間伐材が実際、建設業をやっている山林の方を見ると、まだまだ荒れている。昔かなり林道を作ってはいるが、それを有効的に利用していないのではないかと思っている。これについては、この地域を災害から守るという意味で積極的に行った方がよい。その間伐材を利用してペレットストーブに行けば、さらにいいと思っている。ただ、燃料で考えると安くないと話を聞いている。設備も自己負担がかかる。今後の普及はもう少し力を入れないと難しいのではないか。</p>
熊倉委員長	<p>岩佐委員は使う機会が多いと思いますが、ペレットストーブ、薪ボイラー含めていかがですか？</p>
岩佐委員	<p>ペレットストーブは自分の宿で2台、杉などの針葉樹を燃やせる薪ストーブを1台使っている。ペレットストーブよりも杉材を直接燃やせる薪ストーブの方が効率的で楽で速く、熱効率も良い。燃料費も安い。ペレットはペレット化するところに産業が発生するため、産業振興という部分ではいいのかもしれないが、森を守ることということ言えば、少し違った考えも必要なのではないかと思う。燃料とクリーンエネルギーの部分にも関わってくるが、以前、海外でエネルギー事情を取材したときに、海外ではどちらかというと間伐材や廃材も含めてコージェネレーション（熱電供給システム）化している集落をたくさん見ている。これは非常に効率的で、集落単位に導入している。家庭でのペレットストーブより、集落単位に集落の森をどう維持して、そこに総合的な熱源を持って、場合によってはそれで発電もしている。発電と熱源を有効活用している。特に北欧やドイツの寒冷地でやっている。南魚沼市も寒く、雪が多いところなので、焼却施設を作って、そこからコージェネレーション化で熱源を持っていくことで、相当いろいろなことができる。コミュニティとして、林業と燃料、地域の森を守るという部分を一体的に考えると、組み直しが必要ではあるが、非常に効果的なのではないかと思う。</p>
熊倉委員長	<p>これも今後、皆さんと議論していかなければならないことだと思う。その中でペレットストーブという形で一步開かれたことは価値のあることだ。トータルに考えての一步として位置づけて、今後議論の大きな焦点にしたい。評価はこのとおりでよろしいでしょうか？経済効果はどうでしょうか、塚野委員。</p>
塚野委員	<p>この補助金とコストをかけてどのくらい効果があるのかは、この資料だけでは見えないため、コメントしづらい。他の委員の意見のとおり、普及にはこれだけではまだまだ足りないところがあると思う。</p>
熊倉委員長	<p>内部評価はこれでよろしいでしょうが、そこに留めずに、森とコミュニティと熱源をトータルに考えた良いシステムに発展させていって、経済効果も出せるようになっていけばいいというところで、今回は留めさせていただきます。</p>

<No.7 新エネルギー等普及促進事業>

熊倉委員長	No.7 新エネについてはいかがでしょうか？羽吹委員、需要者も含めてこの状況は？
羽吹委員	自分の感想は、雪国は日照の関係で効果が薄いのではないかと思っていた。件数としては、14 件ということで、それなりに効果があるのかなと思う。ただ、電力を買ってもらうことが難しくなっている。その辺が今後どう影響してくるのかという心配が少しある。
熊倉委員長	実際、家庭用は自家消費というか、地産地消と考えていただいているのですが、コストが見合うのかどうかという問題もある。関副委員長、コメントをお願いします。
関副委員長	まさにこの業種を行っている。昨年、太陽光パネルを設置した枚数は、群馬、栃木方面で一軒家換算して 5,000 軒くらい工事した。南魚沼市ではゼロ。太陽光パネルについては、どのメーカーも 2m以上の積雪の保証が付かない。ですので、施工業者が 1 年間の保障を付けている。1 年でパネルが割れてしまえば、施工業者が費用負担しなければならない。ただ、自然エネルギーの活用については、進めていかなければならないことなので、めげずに進める方が良い。
熊倉委員長	粛々と事業を継続していくこととしたい。いきなり中止もおかしい話でしょうから。

<No.8 南魚沼版 CCRC 等移住促進事業>

熊倉委員長	No.8 の CCRC については、半分位の委員の方々が推進協議会のメンバーで踏み込んだ議論をされている方なので、推進協議会のメンバーでない方から推進協議会に宿題という形で感想を出していただくということで行きたい。大谷委員いかがでしょうか？
大谷委員	立上げの部分になるためか、実績額が大きくなっている。今後の方針の理由には「継続」とあるが、今後の方針は「事業内容の見直し（改善）」となっている。この辺の中身を教えてください。
熊倉委員長	事務局の方から、今後の方針を②の「事業内容の見直し（改善）」としたことについて、説明いただきたい。
清水総務部 部参事	これにつきましては、CCRC だけではなく、「等」という言葉を入れておりまして、若い方たちの移住促進も含まれています。内容としますと、1,300 万円ほどが基本構想の検討、調査関係の業務に使っている。また、若い皆さん、中高年の皆さん向けの情報誌やウェブサイトによる情報発信に 1,400 万円ほど使っている。そういう意味で、②の事業内容の見直しとしましたのは、いかに移住定住を促進するために、効率的な事業が他に何かあるのかを模索しながら進めているということにして、H28 年度につきましても、すでに予算の方は 4,100 万ほど計上されております。その中で CCRC もそうですが、若者の移住定住に向けた事業を展開しているところです。特に 8 月 27 日が初回になりますが、2 つの事業があり

	<p>まして、日経 BP 社でお願いしているところですが、「セカンドライフ塾」というものと、「グローバル人材育成塾」という 2 つを事業化しております。「セカンドライフ塾」の方は、第二の人生ということで、中高年の方をターゲットに 50 歳以上を対象として、一昨日参加申込みの公開を開始いたしました。今現在 18 名の参加者がございます。定員は 60 名ですので、こちらは順調に進んでおります。「グローバル人材育成塾」についてですが、まず、グローバルという言葉は、グローバルな視点を持ったローカルな人材ということです。そういった方を UIJ ターンの中で集めていきたいという目的でございます。こちらの方も同じ時期に公募を始めましたが、残念ながら今のところ参加者は 1 名となっております。こちらは内容を見直しながら進めていきたいと考えております。グローバル IT パークも非常に話題性が出ておりますので、これらとうまく絡めながら事業内容を見直すということであります。</p>
熊倉委員長	<p>国が南魚沼市の取組みを最初のモデル事業として取り上げたこともあり、こちらも試行錯誤なこともあって、見直しをしながら改善をして進めていくということで理解をお願いしたい。それでは、坂井委員お願いします。</p>
坂井委員	<p>事業概要の目的のところ、健康に老後を過ごすプログラムの研究ということと、移住者の知識や才能を地域で活かしてもらうプログラムの調査・開発というところが、もう少し市民に分かりやすく出てくると議論が深まるのかなと考えております。受け入れた移住者の方が、その中だけで地域コミュニティが成り立つだけではなく、市民全体の中で地域コミュニティがどう向上していけるのかということが出てくると、市民全体の議論となっていくと思う。</p>
熊倉委員長	<p>おっしゃるとおりだと思う。高橋委員どうでしょうか？</p>
高橋委員	<p>(この資料だけでは内容がわからず) コメントできない。</p>
熊倉委員長	<p>それだけまだ皆さんに分かりやすく伝わっていないという反省をしなければいけないと思う。矢口委員いかがでしょうか？</p>
矢口委員	<p>2 点ほどあります。ひとつは、看護師をしている姪が、こっちに帰って来たいのだけれども、旦那の就職先を市内で探さなければならない。新たに仕事を探すと、また一からの給料になってしまう。今の給料のままで同じ条件で働けるような仕事を紹介してくれるところがあれば、こっちに戻って来たいという話が出ていました。もうひとつが、高齢者移住の件で南魚沼が TV に出たことがあり、それをたまたま見ている、お母さん方と雪は見たいけど、家の周りに雪は欲しくないよね。どうせなら住む場所一体に雪がなくて、買い物に行くときには雪があるような地域づくりができればいいねと話した。住んでる間は玄関から出ても雪がないという立地で、買い物行くときだけは雪があるような、ひとつの雪のない村ができていたら、すぐ買うねという話が出ていた。</p>
熊倉委員長	<p>そういう宿題があったと受け止めてください。羽吹委員どうでしょう</p>

	か？
羽吹委員	正直よくわからないのですが、CCRC は南魚沼市の大きなプロジェクトだと思う。何人かに話を聞いたことがあるが、それだけ知らないということだと思うが、大雑把に言うと、わざわざ外から高齢者を呼ぶ必要があるのですかと言う。それでなくても高齢者が多い中で、外から高齢者を呼んで、余計この地域はおかしくなるのではないか、それよりも若者が来るようにした方がいいのではないかという話を何人かに聞いたことがある。私もよくわかっていないので、それに反論することもできなかったのですが、単純に私もそういうことかなと思っている。それが違うのであれば、それだけ市民がわかっていないということだと思う。その発信をもっとやらないと、後ですごく大変なことになるような心配がある。IT パークにしてもよくわかっていないです。その発信をやらないと心配かなと思う。
熊倉委員長	まさにそうだと思う。南雲委員どうですか？
南雲委員	施策として地域外から若い人にせよ、年齢の高い方にせよ、人を呼び込む場合には、受け入れる側の地域の周到な準備が必要ではないか。例えば CCRC という用語だが、国の作成資料では「生涯活躍のまち」という言い回しに変化しつつあるように見える。南魚沼市に住んでいる方に親しまれる呼称を案出することも含め、受け入れ側の準備を進めることが必要だと考える。
熊倉委員長	貴重なご意見、かなり辛口なご意見をいただいた。この中で二つの協議会に重なっている委員は、今の意見を聞いて、市の担当者と次の議論で進めていただきたい。今回については、これを受け渡すということで、議論を閉じさせていただきます。

<No.9 キオスク端末導入事業>

熊倉委員長	No.9 キオスク端末のことですが、マイナンバーカードについて、これについてご意見はどうでしょうか？高橋委員、この状況はご覧になりましたか？いろんなところのレポートを取っている中で、マイナンバーカードとか、キオスク端末とか、いかがですか？
高橋委員	私自身はマイナンバーカードを積極的には利用していない。出してくださいと言われたときに通知カードを出しているだけ。南魚沼市というより、国かもしれないが、なぜ持っているのかまだ理解できないので、なかなか動けないというのが一個人としての感想。
熊倉委員長	その他の方、これについてどのように考えていますか？
大谷委員	これは国の施策で入れることになったわけですが、補助率はどれくらいなのですか？
熊倉委員長	10分の10です。
大谷委員	国が地方創生で導入するということですから、それだけの話ですよ。
熊倉委員長	今回の事業については全て10分の10です。中島委員、学生や先生に外

	国人が多いと思いますが、これについていかがですか？
中島委員	マイナンバーはトップの個人情報なので、カードが送られてきたときに、どうやって本人に渡すかが、学内では難しい扱いになっている。担当者一人を決めて、その方が必ず手渡しするとか、難しい対応をしている。個人的には、市民のメリットがどこにあるのかわからない。国が税金を逃れられないようにするため、串刺しで把握するために持たされているのかなくらいしかわからない。キオスク端末があるからといって、積極的に利用するかどうかはわからない。
熊倉委員長	樋口委員、いかがですか？
樋口委員	皆さんと同様な意見。個人的には通知カードしか持っていない。学生とか非常勤の先生方からマイナンバーを手に入れるにあたり、ガードが固い方もいて担当者が苦勞している。ただ、制度が始まって、それなりに理解が進んでおり、今のところトラブルはない。マイナンバーカードを発行したメリットは、学生や職員からは特に聞いていない。ダブルワークとか、就業規則に反して兼業しているとか、そういうところを防止するというところでは、効果があるのではないかという感想。
熊倉委員長	市当局として、キオスク端末を置いて利用しやすくなる、いくつかのメリットをつけましょうということが、市民の方や両大学等々にどれだけ周知できているかを検証してみてください。そうすると他の市に比べて発行数が多いという部分が十分検証されると思う。

<No.10 地元産木材の活用推進事業>

熊倉委員長	No.10 の地元産木材の活用推進事業は、数値としてはいい数値が上がっていると思いますが、ペレットストーブと併せて、一体化させて議論を進めていくということによろしいでしょうか？羽吹委員、プラスする意見はありますか？
羽吹委員	この数字を見て意外とあるなと思いました。南魚沼産もそうだが、木材は大変高い。集成材の方が安いので、その中でこれだけの数字が出ているのは、正直びっくりした。どんどん使ってもらった方がいいので、もっと頑張ってもらいたいと思う。
熊倉委員長	ペレットストーブなどと一体的に考え、森林資源活用の一つの要件としながら、推進をしていくということによろしいでしょうか？

<No.11 起業支援事業>

熊倉委員長	No.11 起業支援事業ですが、これについては坂井委員から、ぜひご意見をいただきたい。
坂井委員	市や国際大学、金融機関、商工会等含めたいろいろなところと連携して創業支援の枠組みということで取り組んでいます。それぞれの持っている能力が違いますから、それぞれのところでそれぞれの支援を行っているということです。商工会で私が一番感じているところは、他の地域に

	<p>比べ、創業相談は非常に多いです。県内いろいろなところを回っていますが、南魚沼市は どうしてこれだけ創業相談があるのかなというくらい、相談がある。その相談の中で、全部が南魚沼市で創業するとは限りません。こちらで勤めている方が、実家の十日町に帰って創業したいというような相談が中にはありますが、創業相談は多いです。それだけ当市に魅力があるということなのだろうと思う。特に、飲食業、美容業、宿泊業、観光の産物を域外に持って行って売りたいという相談が主だと感じている。一方、市の制度が他市に比べて、創業支援の枠組みが少し見劣りをするのかなということで、先般も市長へ要望したところです。前向きに検討しましょうというお話をいただいたが、例えば、長岡市は創業支援を 1,000 万ということで目玉事業にしている。今、国の創業支援の枠組みですと 200 万、県 NICO で 100 万というのがあります。これだけ創業の需要があるのですから、もう少し支援の枠組みを広く作っていくと起業者が増えると考えている。地元の中だけで、創業したいという方がこれだけいるわけですから、首都圏やリタイアした人からも含めて、起業していく枠組みを構築したらいいと感じている。</p>
熊倉委員長	樋口部長、これについて何か意見がありますか？
樋口産業振興部長	<p>今ほど坂井委員からいただいたご意見につきましては、私共も承知しております。他市より制度が見劣りしているという意見をいただきまして、市長を含めて検討しているところですが、まだ結論が出ておりませんので、この場ではご報告ができません。また、市外からの起業者への取組という意見もいただきましたので、交流人口の増、あらゆるものを利用してこれから検討をしていきたいと考えております。</p>
熊倉委員長	岩佐委員、これについてご意見はございますか？
岩佐委員	<p>坂井委員のおっしゃるように、どんどん拡充をしていった方が思いますし、グローバル IT パークと重ねながら、より拡充をしていくのが良いのではないかと感想として持っている。</p>
熊倉委員長	<p>矢口委員、宿泊を行っている中でこの辺についてどう思いますか？創業ばかりではなくて、第二創業もあれば、現在やっていることのバックアップも欲しいという部分もあるだろうと思いますので。</p>
矢口委員	<p>実は、昨年これを受けてみた。日程が合わず、全部受けられなかったが、話が難しかった。大きい企業向けの説明で、個人の起業が対象ではなかったのが、正直苦痛だった。今年も案内が来たが、また同じ内容かなと思っている。</p>
坂井委員	<p>今、創業セミナーとビジネスプランを作る創業塾ということで行っている。ベンチャー企業向けのセミナーの話が多くて、なかなか個人で開業しようというところが少し薄かったかなと思っている。参加者の皆さんは個人で起業する方がほとんどなのかなということで、今年度はベンチャー向けの話ではなくて、個人で開業していく人たちを対象にどうしていったらいいのかという内容でセミナーをお願いしたいということで、</p>

	話を進めているので、よろしくお願ひしたい。
熊倉委員長	やはり説明する側が、経営学の言葉とか、カタカナ言葉とか、難しい数字を並べられるので、皆さんそれで滅入ってしまう。わかっただけのセミナーを手厚くしていただくようお願ひしたい。高橋委員に、レポーターをしながらも、実はこんなことをしたいという方は結構いると思うので、そういうところにもアンテナを上げていただくことをお願ひします。関副委員長は JC OB として、どうですか？
関副委員長	起業する人は、我々の電気業界でもどんどん目減りしている。その中で起業促進というのは、まさにやらなければいけないことだと思う。他市に比べて劣っているのであれば、手厚くするのが必要。先ほども言った若者の U ターンや流出に直結してくる。手厚く、どんどん進めていってくれればと思う。
熊倉委員長	市として、今後の方針は①がいいのか、②がいいのかという微妙なつけ方があると思いますが、地域の皆さんに合った形に事業を組み直して発展させていく、その財源としては、国の交付金だけではなく、市の単独事業も含めて充実させていくという方向でどうでしょうか？強く言っただいて、議事をぜひ納得させてください。

<No.12 国際理解教育活動事業>

熊倉委員長	最後の No.12 国際理解教育活動事業になります。事業名称とやってることと、どういう繋がりがあるのかわからない面があるのですが、これについて、まず、国際大学の中島委員、これをご覧になられていかがでしょうか？
中島委員	事業概要と交付金充当経費の内容を見ても、繋がりがわからないのですが、事業概要の方を見ると、市内の子供たちと私どもの留学生が交流を持つ機会を年に数回させていただいております。そういった取組をどこかで知った他市町村からも、南魚沼市と同じようなことをしたいのですが、できますかという問い合わせがきています。先般、佐渡市から話があり、大学の学生を連れて向こうの学生と交流してきました。これにつきましては、若い世代が外国人や多文化を肌で感じるのが教育上重要だと思いますので、今後とも続けていきたいと思っています。交付金充当経費については、私は存じ上げていません。
熊倉委員長	目的、事業、効果は果たして結びついているのでしょうか。事務局から説明いただきたい。
片桐企画政策課長	まず事業概要ですが、国際化とコミュニケーション能力を高める事業を実施という部分に係ってきます。この事業を実施することによって、国際感覚を養って、グローバル化を進めるというところなんです。この事業が何かというところが右側でございます。中学生が海外派遣されて、外国人と交流することによって、また、外国人がこちらの方においでになることによって、国際的な人材が育つだろうと。その中で、先ほど中島委

	員がおっしゃっていた、南魚沼市がやっていることをうちでもやりたい、そういう声が一般の方々の中でも広がっていくことによって、この地域が選ばれる教育を進めている地域になるのではないかとということです。そういったことで、子育て世代が転入しやすくなり、転出しにくくなるだろうということで、アウトカムな目標を立てた次第です。
熊倉委員長	今のご説明にご意見があればお願いします。樋口委員どうですか？
樋口委員	今の片桐課長の説明で、そうかと思ったのですが、資料を見て感じたのですが、国際大学は市内の小中学校を対象にということですが、私は国際情報高校の評議員もしておりまして、国際情報高校は「スーパーグローバルハイスクール (SGH)」として指定されていて、海外進学コースが新たに設立されました。この春、卒業された方が 5 人、カナダ、アメリカの大学に進学されている。先生方の悩みとしては、国際情報高校は、3 年連続定員割れということなのですけれども、そういった SGH や海外進学コースといったところが、周辺の中学生等に周知されていないのではないかと。そういったコースができたから、そこに行くと海外に行かなければいけないのではないかと、という評判があるのではないかと、ところを危惧されていた。そういう意味では、小中、高校を入れて国際大学を交えて、全体を見た視点を取り入れていただくのがいいのかなと思います。
熊倉委員長	先ほど話にあったグローバル人材育成事業みたいなものいいのじゃないか。私個人の意見としては、KPI は、転出者減ではなく、国外との転入出が両方増えているとすればよいのではないかと。それだけ世界と行ったり来たりしているということではよいのではないかと。選ばれた教育だから転出者が減るとするのは少しきついなと思いました。全体の評価として、事業効果についてはあつたらうと、事業は継続していく、ただ KPI を①と言えるかどうか、ちょっと疑問があると思う。②とも言い切れなけれども。そんなところで全体よろしいでしょうか。(全員了承)

<No.1 南魚沼市総合戦略策定事業>

熊倉委員長	No.1 南魚沼市総合戦略策定事業に戻りまして、今までのことをやってきました、一応効果はあつたし、方向は見定めたということで、皆さんの意見を集約してよろしいでしょうか。(全員了承)
-------	--

③ 現在の地方創生交付金事業について

(進行：熊倉委員長)

③と④については、説明をいただいて、どうしてもこのことについて疑問があるとか、意見を加えたいことについて、意見をいただくということでお願いします。

当日配布資料：資料No.3 により説明

熊倉委員長	それぞれを議論していると時間のかかる話ばかりなのですが、CCRC については、先ほど皆さんからご意見をいただきました。次の IT パークのことについて、皆さんから意見や希望、疑問があればお聞きしたい。グローバル IT パークについて、市の方から補足説明をお願いしたい。
樋口産業振興部長	概要につきましては資料のとおりです。16 社ということで、計画を進めておりますが、まだ不確定要因が多くあります。今現在、日本の法律に基づいて会社を設立できたのが 3 社、手続き中が 2 社という話を聞いております。海外の企業が日本で法人を設立する場合のハードルが非常に高いことがあります。資本金の問題、就労ビザのことがありまして、法律あるいは習慣の違い等もありまして、一気に 16 社埋まるという状況では残念ながらありません。ただ、グローバル IT パークの構想とは違いますが、市と縁のある日本の IT 企業から 1 社入っていただけることになっている。将来計画といたしましては、長期スパンで考えています。今始まったばかりでして、第 1 段階・実験的段階であり、種を蒔く状況だと考えています。今後、第 2、第 3 段階とおよそ 15 年をかけて、ここに IT 企業を集積できればと考えています。今作っているブースではいずれにせよ足りなくなりますので、種蒔きの施設として大和庁舎のブースを考えております。第 2 段階、第 3 段階の進捗状況によって、また新たな用地なり、建物なりの検討になるかと思えます。いずれにせよ、最低でも 15 年かかるということで考えております。
熊倉委員長	質問、意見等ありますか？なかなかわかりにくいというのが現状かもしれませぬし、まだまだ十分動き出してもいけませんので、次回以降にまたいろいろ議論していくということによろしいでしょうか？こう進んでいるということにします。
熊倉委員長	次の学びの郷につきまして、質問等ありますでしょうか？このことについて、聞いたことはありますでしょうか？このことについて、初めて聞いた方、挙手をお願いします。(全員挙手) こういう状況であります、教育部長いかがでしょうか？
中島教育部長	昨年「南魚沼市後期教育基本計画」を策定いたしました。今まで基本計画と言いますと、義務教育期の計画が中心で、ほとんど生涯学習主体の教育でした。今回は委員総勢 46 名ほどで分科会を作りまして、生涯学習、社会教育、子育て支援、あるいは家庭学習等を検討していただき、生涯を通じての教育基本計画として策定いたしました。これは、市長が主催します総合教育会議におきまして、市長が策定すべき教育の基本計画として位置づけられております。生涯学習、社会教育の中で、合併後、一つの市としての生涯学習の部分が、まだかなり旧町のものを利用してあります。それを地域の資源を活かした形で、統一した形のプランを作っていかなければならないということになりました。イメージとしては、学びあい、教えあい、伝えあい、そして輝く、わたしと地域というイメ

	<p>ージプラン構想です。先日この学びの郷南魚沼プランの具体的な骨格の計画を作ろうということで、策定委員会を立ち上げまして、第1回の会合を開きました。委員は市外の委員を中心に12人ということで、青年会議所等を含んでおります。子供の部分につきましては、幼少期からこの地域の中で「たんけん南魚沼」という形で、イメージとして、この地域で社会的な活動、屋外での活動、義務教育とは別な意味での地域の協力を得た中での体験的な協力をしていかなければならない。大人の部分につきましては、この地域には国際大学、北里学院がありますけれども、学びを高めたいという意欲のある方たちにとりまして、まだまだ高等教育の部分は非常に弱い部分があります。この部分をCCRCだとか、地域間交流の中で人材を確保し、学びを高めたいという人の意欲に沿えるような地域カレッジ、市民カレッジというようなものを生涯学習センターや皆さま方が自立した形で「こういったことを学びたい」というもののセッティングをうまくできるような、そういった組織を作りながら検討していきたいという内容になっております。お年寄りにつきましては、それぞれ培った経験と自分たちもまたお互いに教えあえ、それをまた次の世代に伝えあうというような形で、生涯にわたって元気に過ごしていけるようなそういった取組であるとか、この地域で生活することで、また議論を深められるような地域にしていきたいと考えております。具体的などころにつきましては、今後1年かけて検討会議の方で頭角を出しまして、来年度以降、具体的な事業に結びつけていきたいと考えております。</p>
熊倉委員長	<p>教育基本計画に載せて、実施計画を策定中だというのが実態ですね。地方創生交付金の中で手を挙げているということは、H28年度事業として、金額なり、具体的な事業が決まっているということですか？CCRCだとかITパークだと明確に事業がわかると思いますし、長岡中心のDMOも事業がわかるのですが、これについては、事業を確定して交付金に手を挙げているということですか？</p>
片桐企画政策課長	<p>H28年度の交付金は推進交付金という名称ですが、(具体的事業を記載した)地域再生計画というものを作らなければいけないという内容になっており、その中にこのプランを組み込んでいくという流れです。</p>
熊倉委員長	<p>要するに、今回は位置付けるというだけですね、今回はまだ。事業があるわけではないのですね。わかりました。それで皆さん理解が進んだと思います。こういう計画があって、それを地域再生計画の中に位置付けるので、皆さんもご理解をいただきたい、そういうことでよろしいですね。</p>
熊倉委員長	<p>次の長岡中心の中越のDMOについて、何かありますか？前半のところ、今日議論すべきところの中でお話をしました、グルメライド、グルメマラソン等を中心にしながら、観光事業、イベント振興事業と地域の経営あるいは就労環境を位置付けるということをお話の中で議論してい</p>

	<p>ましようという色付けを明確にさせて、長岡が進める全体の DMO の中で南魚沼市のスタンスをしっかりと決めていくという議論をこれからもさせていただくということで、これについてはよろしいでしょうか？</p> <p>確かに中越地方といいますけれども、その中に埋没してはいけないので、どれだけ強みをきっちり出していくか、この中で主張できるような議論を皆さんにも強めていただきたいということでよろしいでしょうか？</p> <p>(全員了承)</p>
熊倉委員長	<p>塚野委員がお戻りになったので、ご意見をいただきましたかったことがひとつあります。資料No.2 のNo.11 起業支援事業について、今後さらに強めていくためには、現状の中で、塚野委員から見てここがいい、ここが問題、ここを強めた方がいいというご意見があれば、お願いします。すでにこういうことをやっているということでも結構です。</p>
塚野委員	<p>途中抜けまして申し訳ありませんでした。起業支援ということで、非常に素晴らしい取組で、受講された方は、実際に創業に向けて動いているということでは、素晴らしい取組だと思っております。起業につきましては、先日、六日町商工会の方でも会合がありまして、資料も拝見していますが、飲食とか美容とか、ある程度偏った業種にもなっておりますので、ここをどうやって実際に外から稼いでくるような、事業を創業していくのかとか、あるいは、第二創業でそういったものを発展させていくのかとか、そういうところにも着目しながらできると、もっといいのかなというところと、すでに飲食とかも含めて、逆にこれを資源としてインバウンドを含めた観光客をどう呼び込んでいくのか、というところを一体化して考えていくところも一方では必要だと思いますので、総合戦略の中にもあったとおり、事業化の中には入ってないのですけれども、海外市場を視野に入れたマーケティング、販売力・営業力の強化を促しますというような一文が入っておりますけれども、ぜひいろんな事業化に向けた動きを付け加えていただけるとありがたいと思っております。</p>
熊倉委員長	<p>樋口産業振興部長、今の意見を加えてください。塚野委員がいらっしやらないときに、矢口委員が実は去年参加したのですが、大きな企業向けが多くて、なかなか個人事業者としては大変だったと。できれば個人事業者が本当に起業に向えるような、わかりやすい起業セミナーをして欲しいという意見がありまして、坂井委員がその準備をされていると言われましたので、塚野委員もぜひ、バックアップをお願いいたします。</p>
関副委員長	<p>No.11 に戻ったところで、一点言い忘れたことがありまして、今、起業する方は、飲食の方が多いいというお話でした。六日町は、私の世代が飲食業でどんどん起業していったって、駅前の商店街が少しずつ埋まってきた。六日町活性化会議というのがありまして、その中で、塩沢は牧之通りで活性化してきている、浦佐は CCRC、基幹病院、IT パークで注目を集めている。六日町がどうなのかというと、起業していった人は飲食業が多い。その中で、個人起業向けに飲食業に特化をして、飲食業にはこ</p>

	<p>ういうものが必要で、こういうところで場所も提供できますよというよ うな、若者が進出しやすいところが、この事業の中にあるといいのかな と思います。そこがいま狙い目かなと思います。六日町活性化会議で、 六日町の駅を改修するとかいろいろ案は上がっていますがけれども、私と しては、今、六日町の強みというのは、飲食店がどんどん増えていって、 若者が集ってきているところだと思う。そこを起業支援して伸ばしてい って、誘致をしていって、商店街を例えば、雪国食べ歩き商店街だとか、 雪国グルメ商店街だとか、駐車場を誘致してグルメの街として、ここに くれば何でも食べられる、国際大学の人もバスで遅い時間まで来て食を 楽しめる、ここにくれば本当においしいものが食べられる、何でも揃っ ている、はしごもできるというような構想。六日町には今の強みを伸ば していくのが勝ちどころかなと思っている。そこにタイアップをした起 業支援、全体的な個人起業だけではなくて、できるのであれば、食とい うジャンルでも起業支援するのもおもしろいと思いました。</p>
熊倉委員長	<p>このご意見、二人でバックアップしていただいて、市の支援をしていた だきたいと思います。</p>

④部会での PDCA について

当日配布資料：資料No.4 により説明

(進行：熊倉委員長)

この推進会議でこれからも評価をいたします。今回実験的に、国の前倒しがあり、評
価をさせていただきましたが、まさに、この会をもう少し続けさせていただいて、議論
を深めていきたいと思っておりますので、皆さんのご協力をいただきたいというのが市の本音
です。今後もお引き受けくださいますようお願いいたします。

⑤その他

特になし。

(進行：熊倉委員長)

まとめていきたいと思っております。基本的にはこの方向でさらに進めていきたいと思いま
す。最後に、南雲委員に県の立場から、このことについて一言お願いします。他の地域
も含めて、南魚沼市は頑張っているねとか、もっとここ力入れたらいいよとか、県にち
ゃんとつながりますとか、そういう話を一言いただきたいと思っております。

(南雲地域振興課長)

会議資料を見せていただき、南魚沼市役所のご苦勞がよく理解できた。他地域との競
合や、一過性の取組に終わらせないことを念頭に置くことが必要では。地方創生の掛け
声のみで懸案を全て一気に解決することは難しいわけで、外部環境いかにかわらず、
現状と問題点を正確に捉えて、課題を的確に設定して、根気強く取組むことが重要では
ないか。これは、南魚沼市だけでなく、私ども新潟県南魚沼地域振興局の置かれた立場
もまた全く同じです。

(進行：熊倉委員長)

市も国もなかなか手が届かないところで、県としてこれは手が届くよということがあったら、ぜひいろんな政策を今後提案ください。また、新潟県内の他の地域のところで、これについてはこううまく工夫しているよ、南魚沼も参考になるんじゃないのということがあったら、情報提供を今後ますますお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

関副委員長、最後のまとめを副委員長としてお願いします。

4.閉会

(関副委員長)

2時間半にわたる長時間の会議お疲れ様でした。この一年感じたこと、第1回の会議は9月だったと思いますけれども、ここで会議を開いたときに、熊倉委員長の方から、たしかそれいいねと言っていたような気もするのですが、ここには載っていない浦佐駅の活用を提案させていただきました。実はその後、JRにプレゼンする機会を市の方から与えていただきまして、新潟に行ってプレゼンしてきました。JRの方も協力してぜひやろうじゃないかという話で進んでいまして、具体的に市の方で、地方創生とは別に、グローバルITパークを皮切りに企業誘致を行ったり、CCRCに絡めて影響力のあるものを作ると、具体的に動きそうになってきました。非常に私としてはうれしいところです。このように民間でも官庁でも、また行政とは一歩出た場所で、このような会議でのいろいろな意見をくみ取って、政策に出していただける場というのは、非常に貴重だとこの一年感じましたし、我々市民からすると非常にありがたいことだと感じました。ここにいらっしゃる有識者の皆様は、先ほども話にあったとおり、今後も続くこの会議、また、その他にも召集されることがあるかもしれませんけれども、ぜひ自分の意見を言う、また、人から聞いたことを直接、市に語りかけられる場ということで、今後とも協力していただきますよう切にお願い申し上げ、閉会のご挨拶とさせていただきます。それでは以上をもちまして、第4回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議を終了いたします。大変お疲れ様でした。